

任 賢宰

立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科 博士後期課程

日本と韓国における認知症高齢者と家族へのケアモデル構築に関する研究
～二者関係の親密性の変容に焦点を当てて～

本研究は、日本と韓国における認知症高齢者を支える家族介護者のサービス利用状況と親密性について把握するため、介護過程における心理的ステップを切口に、心理的変容とサービスの利用状況を明らかにし、適切な介入時期及び介入内容を析出した上で、家族介護者に対する親密性の変容についての把握を目的としている。そのために、日本と韓国で認知症高齢者を支える家族介護者と専門職を対象に調査・研究を行った。

その結果、家族介護者の介入時期は、認知症の診断後1年以内で、効果があった通所型サービスを主とする短期入所と訪問型サービスのように介護者のレスパイトを目的とするサービスの早期利用が有効であることを明らかにした。また、家族介護者の親密性は、介護過程の中で変容がみられており、その親密性の変容は、介護という行為からくるストレスや介護負担が加えて、不適切な関係（介護問題）につながる要素を含めていることが示された。